

その名はインマヌエル

(マタイ1・23〜25)

一、「インマヌエルと呼ばれる」

マタイの福音書は、主イエス・キリストの誕生を指して、イザヤの預言のこ
とばを引きつつ、**「見よ、処女が身も
つている。そして男の子を産む。その名
はインマヌエルと呼ばれる。」**と語っ
ています。イエスという名は、旧約では
「ヨシヤ」でありまして、「主は救い」
の意味です。「イエス」は特別な名前で
はありませんでした(コロサイ4・11、
マタイ27・17を参照)。続いて**「それ
は、訳すと「神が私たちともにおられ
る」という意味である。」**と書かれてい
ます。ですが、イエスがインマヌエルと
呼ばれるとは、考えてみれば、そのよう
に呼ばれているのはこの箇所だけです。
それはともかく、「**神が私たちとも
におられる**」は、もしこの約束のことが
自分のものとなるなら、それはすばら
しいことです。人間の努力や知恵によ
っては決して手に入らないものだから
です。ですが、人がキリストを知りませ
と、そして信じて信仰表明としての洗
礼を受けますと、「**神が私たちとも
におられる**」が、信じる者の確信になりま
す。それは、聖霊なる神の働きによりま
す。マタイの福音書は、「**神が私たち
ともにおられる**」との約束で貫かれて

いると言っても過言ではありません。
と言いますのは、この福音書の終わりの
28章20節で、復活の主イエスが次の
ようにおっしゃっているからです。**「見
よ。わたしは世の終わりまで、いつもあ
なたがたとともにいます。」**と。

二、ヨセフの信仰

続きまして、イエスの父としての役
割を果たしたヨセフについて見てまい
ります。ヨセフは、聖書において、どち
らかと言えば目立たない存在です。し
かしヨセフの存在は大きいです。メシ
ア、すなわちキリストはダビデの子孫
でなければなりません。神が預
言者を通してそのように語られていた
からです。ヨセフは、誠実な人間であっ
たと思われれます。彼はマリヤと婚約を
しました。当時の婚約は、夫婦関係は持
たないとしても、法的には結婚したこ
とと同じです。ところが、マリヤが身ご
もっているを知りました。それを告白
したのはマリヤだったのでしょうか。
マリヤは、ルカの福音書に書かれてい
ることを、すなわち御使いガブリエル
が現れて語ったこと、そしてそれを受
け入れたことを話したのかもしませ
ん。ですから、1章18節に**「聖霊によ
って身ごもっていることが分かった。」**
と記されているのでありましよう。で
すが、ヨセフは受け入れることができ
なかつたようです。19節に**「夫のヨセ**

**フは正しい人で、マリヤをさらし者に
したくなかつたので、ひそかに離縁し
ようと思った。」**と記されているからで
す。しかし離縁に踏み切ればどうなる
でしょうか。マリヤは子供を産みます。
そうしますと「ヨセフはマリヤに子供
を宿らせておきながら、マリヤと離縁
をしてしまった。とんでもない奴だ」と
いう非難を受けることになります。そ
れでも、ヨセフはマリヤの身に起こっ
たことを受け入れることができませ
んでした。ゆえに、マリヤと自分が試練に
遭うことを覚悟した上で**「ひそかに離
縁しよう」と** 決意したのでありましょ
う。ところがここに、神の介入が入りま
した。夢においてです。20節、21節で
す。**「彼がこのことを思い巡らしていた
ところ、見よ、主の使いが夢に現れて言
った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずに
マリヤをあなたの妻として迎えなさい。
その胎に宿っている子は聖霊によるの
です。マリヤは男の子を産みます。その
名をイエスとつけなさい。この方がご
自分の民をその罪からお救いになるの
です。」**と。」**こうしてヨセフは、主の使
いが命じたことを受け入れ、すなわち
神が語られたことを受け入れ、マリヤ
を自分の妻として迎え入れました。**

三、「神が私たちともにおられる」

最後に、インマヌエル、すなわち「**神
が私たちともにおられる**」について、

世界情勢を見据えつつ、考えてみたい
と思います。

政治に関することは、様々な見解が
あるためあまり言いたくないのです
が、……ちよつど一週間前の8月15
日に、アフガニスタンの首都カブール
がイスラム原理主義勢力タリバンによ
って陥落し、アフガニスタンはほぼタ
リバンの手に落ちました。米国が、この
泥沼の戦いからの撤退を決めたからで
す。

この度のカブール陥落を見て、今非
常に緊張しているのは台湾でありま
しょう。中国共産党は「台湾は中国の一部
である」と主張し、しかも「核心的利益
である」と語っています。台湾の国民の
多くが、もちろんキリスト教会も含め
て、「明日は香港のようになるかも知れ
ない」として緊張していることは確か
です。もし台湾が中国共産党の軍隊に
占領されたら、次は確実に尖閣諸島と
沖縄を獲りに来ます。このような東ア
ジアの状況を見て、信仰者である私た
ちは、「**神が私たちともにおられる**」
と信じて祈る必要があります。その場
合に、「**神が私たちともにおられる**」
の「**私たち**」とは、だれでしょうか。神
が示された正義と公正を愛し(詩篇33・
5)、あわれみと良い実に満ちた(ヤコ
ブ3・17)人々です。そういう人々
ともにおられる、という約束のこと
ばです。